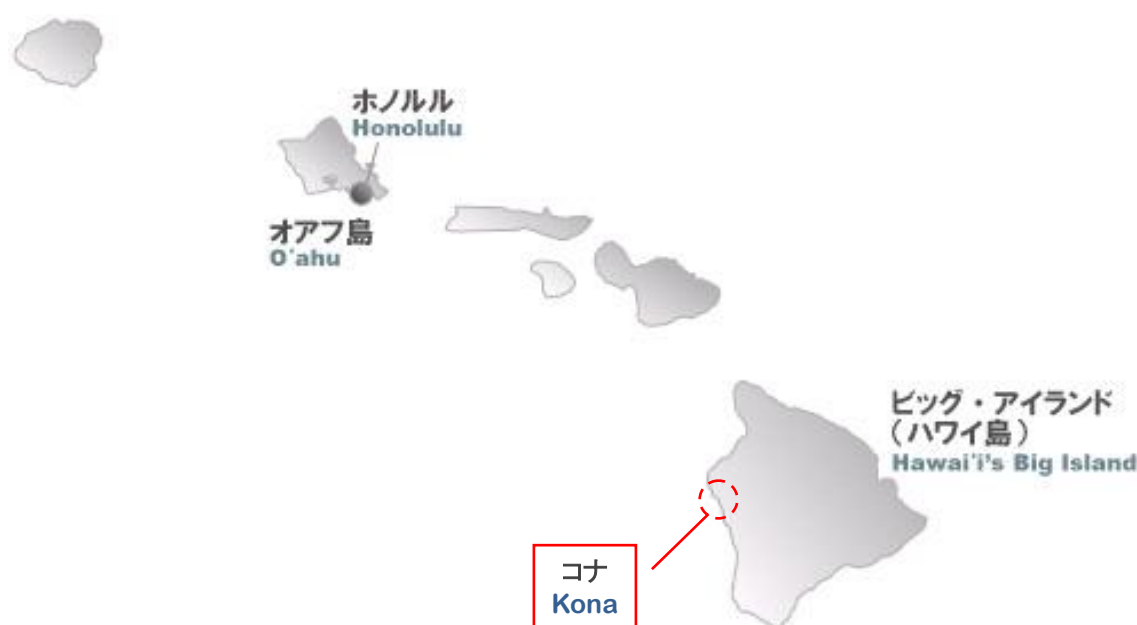


ハワイコナワエナ高校と 久米島高校の交流事業

平成 26 年度 報告書



目次

1. 行程表.....	1
2. ハワイコナワエナ高校と久米島高校の交流事業概要.....	2
3. 生徒報告書.....	7
新里 優奈.....	8
平良 恵理奈.....	12
吉田 鶴愛.....	15

- 派遣期間： 2014 年 8 月 13 日(水)－9 月 2 日(火)
- 派 遣 先： アメリカ合衆国ハワイ州コナ市(ハワイ島)、ホノルル市(オアフ島)
- 派 遣 生： 吉田 鶴愛(普通科 1 年)
 新里 優奈(普通科 2 年)
 平良 恵理奈(普通科 2 年)
- 引 率 者： 斉藤 ゆい(久米島町教育委員会)

1. 行程表

8月13日（水）	久米島～羽田空港～ホノルル～コナ ホストファミリーの出迎えを受け、各自ホームステイ先へ
8月14日（木）	ホストシスターとともに高校生活
8月15日（金）	祝日：各自ホストファミリーとの休日
8月16日（土）	ヒロ・ハーリーフェスティバルに参加
8月17日（日）	各自ホストファミリーとの休日
8月18日（月）	コナ市内視察：NELHA、ドトールコーヒー農園、プウホヌア・オ・ ホナウナウ国立歴史公園
8月19日（火） 8月22日（金）	ホストシスターとともに高校生活
8月23日（土）	各自ホストファミリーとの休日
8月24日（日）	コナ沖縄県人会主催の昼食会
8月25日（月）	午前：ホストシスターとともに高校生活 午後：ビリー・ケノイ郡長表敬訪問
8月26日（火） 8月27日（水）	ホストシスターとともに高校生活
8月28日（木）	コナ～ホノルル パールハーバー、カメハメハ大王像、ポリネシア文化センター見学
8月29日（金）	Manoa Heritage Center など見学
8月30日（土）	第32回ハワイ沖縄フェスティバル参加
8月31日（日）	ホノルル発
9月1日（月）	関西国際空港～那覇（那覇泊）
9月2日（火）	那覇～久米島

2. ハワイコナワエナ高校と久米島高校の交流事業概要

(引率者：久米島町教育委員会 久米島高校魅力化支援事業嘱託員 斉藤ゆい)

1) 経緯

2011 年、久米島町は海洋深層水の研究施設を持つ米国ハワイ州ハワイ郡と姉妹都市提携を結んだ。その中で、産業や教育、文化の各分野で共同プロジェクトを展開していくことを確認したことから、2013 年にコナワエナ高校と久米島高校の交流事業が始まった。本交流事業は、久米島高校の夏期休暇期間に生徒 3 名をコナワエナ高校に派遣し、生きた英語の習得と、異国の文化・風土・生活習慣等の経験を通して、国際的視野を広げ、国際化時代に対応しうる豊かな国際人を育成することを目的としている。

2 年目となる今年度は、派遣期間が昨年度よりも約 1 週間長くなり、8 月 13 日（水）～9 月 2 日（火）の 3 週間の日程で実施した。うち、ハワイ郡コナ地区でのホームステイが約 2 週間、ホノルル研修が 3 日間である。派遣生は、校内選考を通過した普通科



の吉田鶴愛さん（1 年）、新里優奈さん（2 年）、平良恵理奈さん（2 年）の 3 名。本事業では 3 名の派遣枠のうち 1 名が園芸科、2 名が普通科と定めているが、今回は園芸科からの応募者がいなかったため、3 名とも普通科の生徒となった。なお派遣費用については久米島町の「前村幸秀人材育成基金」より助成を受けており、生徒の負担分は 1 割となっている。

〔派遣前には町長・副町長に面会し、意気込みを語った〕

2) 事前学習

事前学習では、英語力強化のため ALT による英会話講習を行ったほか、姉妹都市提携のきっかけとなった海洋深層水について学ぶため、沖縄県海洋深層水研究所を見学した。また久米島紹介の資料作りや三線・歌、組踊の練習にも励み、夏休み前半は忙しく過ぎて行った。

〔海洋深層水研究所で説明を聞く生徒たち〕



3) ハワイ島コナ地区滞在

ハワイ島西部コナ地区にあるコナワエナ高校は、1年生から4年生（ハワイ州の高校は4年制）までの生徒数が約500人の比較的小規模な高校で、ネイティブハワイアン、日系、メキシコ系、ポリネシア地域の国々からの移民など、生徒の多様性が豊かである。コナ地区の中でも、コーヒー農園の広がる風光明媚で歴史の古い地域に位置しており、創立も1921年と歴史のある高校である。しかし最近では、新しく開発された町の中心部で人口が増えており、そちらの大規模校のほうが生徒数が増えてきている。



<コナワエナ高校での高校生活>

コナ地区での滞在中、派遣生はコナワエナ高校の生徒の家にそれぞれホームステイをしながら、ハワイの一般的な学校生活と家庭生活を体験した。ホストファミリーは、昨年度も受け入れてくれたシェイリー・ナカモトさん、スター・チネンさんと、今年初めて受け入れをしてくれたダニエル・ウエムラさん。派遣生たちは毎日ホストシスターと一緒に授業に参加し、日本の高校と異なる雰囲気や、選択科目の多様さ、生徒たちが授業中に積極的に発言し議論することなど、日本とのさまざまな違いに驚いていた。放課後にはホストシスターや友人たちと一緒にフラダンスを習ったり映画を観に行ったり、また休日はホストファミリーにビーチやキラウエア火山へ連れて行ってもらったりと、ハワイの生活を満喫した。

また、高校に隣接するコナワエナ中学校の日本語の先生の計らいで、中学校の日本語の授業や音楽、美術の授業にも参加させていただき、久米島の紹介や三線・組踊の披露、生徒たちとの交流を行った。



〔校内ニュースの取材で三線を披露〕



〔中学校で生徒たちの質問に答える派遣生〕

<ヒロ・ハーリーフェスティバル>

ハワイ島に着いて最初の週末は、島の東側ヒロ地区で行われたハーリーフェスティバルに、コナ沖縄県人会の方々と一緒に参加した。このフェスティバルは 2 年に一度開催され、ハワイ州内だけでなくニューヨークからも参加者が来るほどのイベントである。名護市から 1 ヶ月のホームステイに来ていた日本人中学生たちも参加しており、さまざまなバックグラウンドの人々がハーリーという沖縄文化を共に楽しむ姿に、文化の持つ力を感じると同時に、沖縄にルーツを持つ方々の故郷への想いの深さを肌で感じる経験となった。

<コナ地区沖縄県人会との交流>

二度目の週末の日曜日は、コナ地区沖縄県人会の方々が主催する昼食会に招待していただいた。ホストファミリーを含めて 40~50 名集まった昼食会で、ハワイ料理と沖縄料理を楽しみながら、フラダンスと三線をそれぞれ披露しあった。また、子どもたちにうちなーぐちを教えるための手作りのビンゴゲームなど、ここでも沖縄出身の方々の故郷への想いに触れることができた。



〔ホストファミリーと派遣生が、それぞれフラダンスと三線を披露〕

<ケノイ郡長表敬訪問>

派遣プログラムの約 1 週間前にハワイを襲ったハリケーンの被害への対応のため、ビリー・ケノイ郡長は多忙を極めていたにもかかわらず、コナ沖縄県人会メンバーで郡長のオフィスに勤めているラヴァーン・オオモリさんらのご尽力により、表敬訪問をすることができた。派遣生が大田治雄・久米島町長からのレターを郡長に手渡し、郡長からは今年もコナワエナ高校の生徒 3 名を久米島に派遣するとのうれしい言葉をいただいた。



4) ホノルル研修

ハワイ島での2週間の後、オアフ島ホノルル市に3日間滞在した。1日目は早朝にハワイ島を出発、ホノルルに到着後すぐにパールハーバーへ向かった。十分な時間がとれなかったのが残念だが、太平洋戦争中のハワイの様子、また当時の日系人の方々の様子などに触れることができた。

その後に訪れたポリネシア文化センターでは、ポリネシア地域のサモア、マーケサス、アオテアロア（ニュージーランド）、タヒチ、フィジー、トンガ、イースター島、



〔ハワイの言葉について学ぶ派遣生たち〕

そしてハワイの文化と生活習慣を体験した。ポリネシアとは、太平洋上のハワイとニュージーランド、イースター島を結ぶ三角形の中に含まれる国々を指す総称だが、一見似ているように見えるこれらの国々の文化・習慣も、国ごとに違いがあることを知り、その豊かな多様性を感じることができた。また、各国の文化や踊りを取り入れたショーでは、現代版組踊の参考にしたいと目を輝かせていた。

ホノルル2日目は、Manoa Heritage Center を訪問した。ここは2013年6月の温度差発電開始式の際に久米島町を訪問したハワイの実業家、Mark McGuffie 氏の奥様が管理をしている施設で、ハワイに固有の植物だけを集めた庭園や、古代からの祈りの場所などが保存されている。派遣生はここでハワイの植物や、自然に基づいた言い伝えなどについてのレクチャーを受け、伝統文化を保護し未来へ伝えていくことの難しさと大切さについて学んだ。

3日目は、第32回ハワイ沖縄フェスティバルに参加した。今回の派遣生の一人、吉田鶴愛さんはこのフェスティバルで「なんくるさんしん」の一員として舞台に上がり、



〔左から3人目が吉田鶴愛さん〕

三線を披露した。会場となった公園には、沖縄の文化紹介や物産販売のブースが数多く並び、たくさんの人々が集まっているのを見て、沖縄の文化が異国の地に根付いていることを知ることができた。同時に、故郷を離れ見知らぬ土地でがんばってこられた移住者の方々の努力の積み重ねが、今日の沖縄文化の発展につながっていることを改めて感じる、貴重な機会となった。

5) 帰国後

派遣生は帰国後、9月12日の久米島高校オープンスクールにて、中学3年生を対象に報告を行った。ハワイ滞在中の様子を楽しく伝えるだけでなく、この事業は久米島高校の生徒だけが参加できるものであり、久米島高校の魅力の一つであることをしっかり伝える姿に、派遣生としての自覚と誇りが芽生えていることを感じる事ができた。また大田町長と吉野教育長に報告のため面会させていただいた際にも、一人ひとりが感想や、自分が成長した点・これから頑張る点、将来の夢などをしっかりと語り、町長・教育長からも賛辞と励ましの言葉をいただいた。

6) おわりに

今回、引率者として本事業に参加させていただいたことを、心から感謝申し上げます。普段、生徒と直接に接する機会が少ない分、派遣生たちが日々、新しい出来事に驚き、戸惑い、吸収し、成長していく姿を直に見られたことは、非常に貴重な経験でした。

自分とは異なる社会に住む人々との交流を通して視野を広げるという経験は、これから進路を考え始める高校1年生・2年生という年代の生徒たちにとって、かけがえないものとなります。また本事業は、外の世界を見るだけでなく、沖縄県人会の方々との交流や海洋深層水施設の見学などを通じて、自分たちの足元である沖縄、久米島についての知見を深めることができるという点で、他の一般的な交流事業とは大きく異なります。さらには、前村幸秀人材育成基金の支援を受けることで「島に育てられた」という意識を持った子どもたちが育ち、彼らがさまざまな分野で活躍するようになることは、必ず将来の久米島町の発展につながるものと信じています。今後も本交流事業が継続し、久米島町とハワイ郡との姉妹都市提携をさらに強固なものにしながら、他にない交流事業の形として展開・発展していくことができるよう、微力ながら協力させていただきたく思います。

最後に、今回の事業実施にあたり、大田治雄久米島町長、吉野剛教育長、前村幸秀人材育成基金の関係者の皆さまをはじめ、両校の学校関係者、コナ沖縄県人会、そしてご協力いただいたすべての方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

3. 生徒報告書

ハワイコナワエナ高校と久米島高校との国際交流事業に参加して



久米島高等学校 普通科2年
新里 優奈

私はこの夏休みに一生忘れることのないとても素晴らしい経験をする事ができました。初めてのハワイ、現地の高校、文化に触れること、そして何よりも生きた英語を感じることができるという、こんなにも素晴らしいプログラムに参加す

ることができ、経済面のサポートや参加の承諾をしてくれた両親と、この事業を企画していただいた方々にとても感謝の気持ちでいっぱいです。

私がこの国際交流事業に応募した理由は、2つあります。1つは将来英語を使う職に就くことを目標にしているので、自分の英語力やコミュニケーション力を今よりも向上させ、久米島という小さな島に住んでいますが、国際的な広い視野を持ちたいと思ったからです。そして何よりも、私は英語が大好きで、このチャンスは逃してしまうと、もう二度とないと思いこの事業に応募することを決めました。部活をしており実はぎりぎりまで悩んでいたのですが、応募する選択をしてよかったです。

前回は応募していたのですがようやく今回念願だった参加が決まり、まずは事前学習として久米島の海洋深層水や海洋温度差発電などの、日常生活では学ぶ機会の少ない事柄を派遣が決まった私を含め3人の生徒は学ぶことができました。このようなきっかけがない限り私は温度差発電について詳しく知ることをしなかっただろうと思います。ほかにも、久米島の自然や文化についてお互いで協力し合いながら、調べていくうちに16年も住んでいるのですが島のことを全く知っていないことに気がつきました。このことでショックを受け、これからはもっと自分の故郷のことを知り、将来島から出たときに誰にでも久米島の良さを紹介できるようになりたいと思いました。ハワイに行くことのみではなく、事前の学習だけでも多くの学びを得ることができました。

そして迎えた8月13日、不安と緊張とこれから過ごすホストファミリーとの出会いに胸を膨らませ、私達はハワイ島に到着しました。コナ空港には



ホストファミリーや県人会の方がお出迎えしてくれ、その光景を見た瞬間に長いフライトの疲れがとんでいくほど、嬉しかったです。ここですぐに日本や久米島とは違う、ハワイの文化を体験することができました。3人の首に生花で作られたレイや木の実のレイをかけてくれて、さらにハグや頬にキスをして歓迎してくれたのです。人々の温かさに触れることができ、私は本当に感激しました。もちろんこの時だけではありません。私がホームステイをした約2週間の間にホストファミリーや現地の方、コナワエナ高校の生徒たち、県人会の方など、数えることのできないほどたくさんの人からの優しさ温かさをもらいました。こんな素晴らしい出会いがあって本当に良かったです。私自身も身近な人に優しさや温かさをあげることを普段からできるような人になりたいと考えさせられました。

ハワイ島に滞在している間には、コナワエナ高校にホストシスターと一緒に通いました。日本の高校との違いに毎日驚きの連続でした。まずは敷地の広さに驚きました。久米島高校の何倍もあり、授業と授業の間での移動が急ぎ足でないと間に合わないほどです。他には生徒たちの授業に対する姿勢は本当に素晴らしかったです。授業のスタイルは日本だと生徒が受け身になっていることがほとんどですが、コナワエナの生徒たちは積極的に発表したり、自分の意見を発言していました。逆に教師は生徒に参加させるために質問や発表の機会をたくさん与えていることに気付きました。さらに2週間授業を受けましたが、授業中に居眠りをする人は誰一人いませんでした。この光景を見て、久米島に帰ったら自分も授業を受け身にせずに積極的に発表していこうと決めました。1日の授業の終了時間が久米島高校より約2時間早く、その分の部活時間も早まるため、同じ部活生のホストシスターと私ですが帰宅時間が夕方6時と夜8時という違いにもとても驚きました。逆に日本の学校の良い面にも気付くことができました。教室や学校の清掃をすることは日本だけの文化なのですが、清掃をすることも大切なのではないかと感じました。授業中の行動でも気になる点がありました。自由な校風なのは良いと思いますが、授業中にスマートフォンを使用したり、スナックなどを食べたり、ジュースを飲んだりしている生徒が多くみられ、文化の違いもあると思いますがこの点では久米島高校のメリハリ、けじめのある態度がよいと感じました。

コナワエナ高校の第二ヶ国語として日本語の授業を選択している生徒が多いと聞き、私は嬉しく思いました。その理由としてハワイ島には日系人が多く住んでいるため、その子供の世代や日系3世が身近にいることが大きく影響しているそうです。そのせいか日本食が浸透していて、お店の名前に日本語や日本人の名前が使われているお店も多くありました。現地では日本のおもちゃの“けんだま”が学生の間で流行していて、日本人でもできない人が多いのですが、けんだまで様々な技をしていました。日本の遊びや沖縄のさんしんや方言を私は知りません。このハワイ派遣の期間にとっても私は後悔して、恥ずかしく思いました。日本のことを紹介したくても、日本人である私が沖縄に住んでいる私がなにもしないことが悔しく思いました。

ハワイ島全体ではフラダンスを、中学校ではハワイの音楽の授業がありウクレレやハワイの歌を教えていました。ハワイにも沖縄と同じく方言のようにハワイ語があるそうなのですが、数年前にはハワイ語を話せる人が数えられるほどまで減少したそうです。その状況に危機を感じた人々は、ハワイ語のみで授業を行う小学校を設立するなど若い世代に継承していく活動をしていくことで現在では少しずつではありますが、話せる人や理解できる人が増加しているそうです。この話を聞いて、沖縄の方言がいつか消えてしまうのではないかと私は恐ろしく思いました。実際、私は方言がほとんどわからず、周りにいる人たちで理解かつ話すことのできる人も多くありません。若い世代の方言を知る人が増えず、方言を使える上の世代の方がいつまでもいるわけではないので、ハワイ島のように若い世代に伝承していくことがこれからの課題であり、最も重要なことではないかと思います。

ホームステイ期間中には **Uemura Family** にお世話になりました。家族全員が忙しい一家だったのですが、私の為に時間を作ってくれてとても優しくしてくれて本当に充実した2週間を過ごすことができました。話しかけてくれて私のボキャブラリーが無くうまく伝えることができないときは「ゆっくりでいいのよ」と笑顔で答えてくれたのです。その時は嬉しかったのですが、話したくても言葉が足りずにもっと勉強してくればよかったと痛感しました。これから英語を今以上に勉強して、いつか **Uemura Family** を訪れて会話を思う存分したいという夢もできました。

一緒に火山を見に行ったり、マザーの職場の小学校を案内してくれたこと、ビーチに連れて行ってってくれたこと、家で一緒にディナーを食べたこと、ドライブして景色を見に行ったり、一緒にショッピングをしたこと、ひとつひとつの出来事が大切な宝物です。

2週間のハワイ島でのホームステイを終えると、オアフ島に移動しホノルルでの研修に移りました。ホノルルはハワイ島とは違い、都会で観光地化されているため私は自然が多いハワイ島が良いと思いました。ハワイ島と久米島では自然風景が似ている所があり、久米島も自然をこれからも残していきたいつつ現在の問題である赤土流出やポイ捨てなどを改善し、島の自然環境をさらに誇れるものにしていきたいです。

ホノルルではポリネシアン文化センターでの体験、見学や **Hawaii Okinawan Festival** への参加、他にも **NPO 法人ガイア・イニシアティブ**の野中ともよさんとディナーをして、ハワイ島と同じように多くのことを得ることができました。特に野中さんとの会話ではこれからの将来の話やこれからの久米島、久米島高校の話をする中で、考えや心理的な面で、自分の悪い癖を指摘されることで人間的に成長することができたと感じました。

今回3週間の海外交流事業に参加する前とした後では、英語でのリスニング力やコミュニケーション力はもちろんですが、考えや視野が大きく変わったことが自分自身でも実感しました。このような素晴らしい経験をする機会を与えてくれた久米島町の方、久米島高

校、両親、そして滞在中に出会ってくれた全ての人に感謝し、これからさらに向上心を持って高校生活を過ごしていきたいです。私が体験したことを多くの友人や先輩後輩に紹介したいと思います。このような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



ハワイコナワエナ高校と久米島高校との交流事業に参加して

久米島高等学校 普通科 2 年

平良 恵理奈

今回この交流プログラムに参加してとても充実した 3 週間をすごすことができました。

私がこの交流プログラムの参加に応募した理由は、私は小学生の頃から外国に興味があり、外国の言葉で誰かとコミュニケーションをとったり、外国の文化を学ぶことが好きで特にハワイは私の親戚も暮らしているので、どのようなところで、どういう文化があるのかと、とても興味があったからです。また、私は将来、久米島に戻ってきてこの島の観光業を今よりももっと盛り上げて島に貢献できるようになりたいと思い、海外に出て語学を学んだり、異文化に触れて視野を広げていきたくったからです。

ハワイではたくさんの人や文化に触れてさまざまな発見がありました。コナワエナで生活をしてみて特に印象に残っていることが三つあります。

一つ目は沖縄と似ているなと思うことが何度かあったことです。例えば食べ物だと、沖縄には「ポーク卵」といってスパムと卵焼きがご飯と海苔でサンドされているものがありますが、ハワイにも「スパむすび」といってスパムがご飯にはさまれて海苔で巻かれてポーク卵と似ているものがスーパーやパーティーをしたときの品としてよく見られて現地の人も好んで食べていました。私も最初にスパむすびを見たときはポーク卵と似ているのが売られている！と驚きました。他にも沖縄には「うちなーぐち」といって沖縄独自の言葉がありますが、ハワイにもハワイ語というものがあって最近ではハワイ語を話すことができる人が少なくなって、ハワイ語をしゃべれる人を増やすためにハワイ語しか使わない学校があると聞いて自分達の言葉をちゃんと受け継ごうとする精神がすごいなと思いました。さらにうちなーぐちとハワイ語でも、もうひとつ似たところがありました。それは、地域によって言葉が少しずつ変わっていくということです。このようにハワイと沖縄との似ている点を人から聞いたり、見たりすることはとても面白かったです。

二つ目は、コナワエナ高校での生活です。コナワエナ高校に通ってはじめて衝撃を受けたのが高校での自由度です。高校には制服と言うものがなく、みんな私服で通い、ピアスをつけることも、化粧をすることも、刺青が入っているものすべて当たり前のように許されていて、生徒はみんな自分の好きなようにおしゃれを楽しんだり廊下ではスピーカーで音楽をながしていたりとても楽しんでいるなと思いました。さらに高校では妊婦さんも生徒として学校に通っており、託児所もあると聞いたときはとても驚きました。授業は一つの授業がだいたい 75 分ぐらいで自分が選択した授業を受け学年の区別無く一緒に授業を受けたりするので大学のような感じでした。授業では、生徒一人ひとりがとても積極的で意見を述べたり、疑問点があったらすぐに質問したりして先生と意見をたくさん交わして理解を深めていくのですごくいいなと思いました。また、ホームルームも週に 1 回だけでいつもは 1

番最初の授業をする教室でコナワエナ高校の生徒で作成した朝のテレビ放送を見てから授業をはじめると、久米島高校と違うところがたくさんあってとても新鮮でした。

三つ目は、ホストファミリーと過ごした時間です。コナワエナでは約 2 週間ホームステイをして、私は **Chinen Family** にお世話になりました。**Chinen Family** は沖縄の日系人でとても明るい家族でした。ホストファザーとホストマザーは日系 3 世で日本語はあまり話せませんが、沖縄のことや日本のことにとっても興味をもっていて方言を教えて！とかこれは日本語でなんて言うの？と聞いて、ホームステイして最初は緊張していたのですが話をしているうちに緊張がほぐれて楽しく話すことができました。ホストシスターとも好きな歌手や役者さんの話をしたり、宗教のことや、お互いに日本やハワイについての質問をしたりして、100%私の英語が伝わってはいなかったと思いますが、分からない言葉は簡単な言葉に言い換えてくれたり、ジェスチャーでつたえたりして、英語でなんといいのか分からず途切れ途切れに話してもちょうと最後まできいてくれたりして、たくさん話をしているうちに言葉の意味を知ったり、どういう風に言ったら相手に伝わるのかなと考える事が身につきました。また、初めは現地の人の話す英語のスピードについていけなくて言っている事が理解できなかったのですが、ホームステイの後半からはスピードになれてきてほしいの事が聞き取れるようになってきました。また **Chinen Family** は週に 1 回パーティーを開いてその度にたくさんの人と話す機会があって、日本、沖縄、久米島のことを聞かれたりして話しているうちに仲良くなって友達が増えたり、一緒にゲームをして遊んだりしてとても楽しかったです。ホームステイ最後の日も家にファミリーの友達が集まっていたので私が三線をもっていたので弾いてほしいと言われ、緊張しながらも披露すると拍手をしてくれて、かっこいいね！や、私は三線のことよくわからないけどとても素敵で好きになった！と言われた時はとてもうれしかったです。ファミリーもフラダンスを見せてくれたり、ウクレレを弾いてくれたりしました。約 2 週間ホームステイをして、ファミリーやその友達たちとたくさん喋ることで会話力も少しずつあがって行って、コミュニケーションも前よりもとれるようになりました。それだけでなくたくさん話をすることでハワイの事もたくさん知ることが出来ました。そしてホームステイをしてみて感じた事は、家族の中でも「**Thank you**」とちゃんと相手に感謝を言う事をしていてお互いに尊重しあっているところがすごいなと思いました。また、友達でも家族の一員のような感じで友達も自分の家の様にくつろいだり本人達がいなくても家にいたり、ご飯をたべたりすることもあったりして、日本で探してもそのようなところはないと思うのでとても新鮮でした。

コナワエナではたくさんの人と触れてたくさん話をすることでハワイの事を知ったり、友達が出来ていろんな意見を交わすことで前よりももっと自分の意見を主張できるようになってきました。コナワエナの方々はとても温かく、優しい人が多くて困っていたら英語が通じなくても必死に説明してくれたりしてくれたので、私ももっと英語を上達させて話せるようになりたいと思い、もっと話せるために英語の勉強をしていこうと強く思いました。また、コナワエナで生活をしていて一番感じた事は老若男女関わらず自分の体型や見

た目をきにしないで自分でおしゃれをしたり、海でも体型や年齢関係無くビキニをはいたりして周りの目を気にせずに普通にいられる事はすごいなと思った事です。日本では太っていたら露出を避けたり、痩せようとするので、どんな体型でどんなに年をとっていても周りの目で自分をかくさないでどうどうとしているのはすごいし、ちゃんと流されずに自分をもっているのを見習いたいなと思いました。

今回、このプログラムに参加して、ハワイの文化や人に触れたことでハワイと沖縄、久米島との似ている点や違う点を知ると共に、ハワイだからこそできたことや、久米島でも活用出来そうなものがないかと前よりも深く考えるようになりました。また、海外に出る事で外からみた久米島はどのような感じだとか、普段近くにあって気付かなかった久米島の良さを改めて知ることが出来ました。さらに、前回のハワイ交流よりも1週間増えたことで体験できたことが多くなりより充実したプログラムになったと思います。

このような貴重な機会を与えて下さり本当にありがとうございました。

この体験を生かしてこれから的高校生活や社会に出たときに活かしていきたいと思います。



ハワイコナワエナ高校と久米島高校との国際交流事業に参加して

久米島高等学校普通科1年

吉田 鶴愛

8月13日。夏休みも半ばを過ぎたこの頃、私はハワイでの短期留学に参加するため日本を立ちました。

この三週間のハワイ交流では思っていた以上の多くの恵みがありました。たくさんの人との出会い、素晴らしい体験や新鮮な感動がありました。このような事業に私が参加できたことをとても嬉しく思います。今後もお世話になった方々に感謝の気持ちを忘れず、また久米島町に貢献できる人材になれるよう努力を続けていきます。

❖Welcomeの心❖

このハワイ留学で最初に学んだのは「Welcome」の心です。今回の留学が私にとっては初めての海外留学で不安だらけでした。しかし、実際にハワイについてみると沖縄に似た雰囲気と、ホストファミリーやコナワエナ高校の校長先生などの温かい出迎えに緊張と不安と旅の疲れがふっと和らいだのを感じました。

彼らのWelcomeの精神はすごいと思います。自分が歓迎されている、ということがこんなに嬉しいことだとは知りませんでした。正直、私はアメリカ人は自己主張が強く、あまり心配りしないのかと思っていました。ところがそれはとんでもない偏見で、むしろ逆に相手に歩み寄り、さりげなく気遣い常に笑顔でふるまう姿には見習うべきことがたくさんありました。

❖ホストファミリーとの2週間❖

私がコナ市で2週間お世話になった Nakamoto family は初対面の私をまるで家族のようにあたたかく受け入れてくれました。初日、ホストマザーが「この家があなたのお家だと思ってリラックスしてね。私達のお家に来てくれてありがとう」と言って抱きしめてくれたのがとても嬉しかったのを覚えています。私のホストシスターは笑顔が素敵な三姉妹の長女です。放課後は彼女の部活を見に行ったり妹たちのフラダンスの発表会にいたり、ホームパーティーを開いたり毎日忙しく楽しく過ごしました。また休日はビーチで泳いだりハーリーに参加したり、県人会の方々と食事をしたり、火山や滝、洞窟などいろんなところに連れて行ってくれたりもしました。とても楽しくて2週間があつという間でした。ホストシスターとは今も連絡を取り合っています。今後も大切にしていきたいです。彼らと出会えたことに心から感謝しています。

✿ スクールライフの中で ✿

コナ高校でホストシスターと一緒に授業を受けて一番に感じたのは学生の元気がいいことです。また、授業中に当たり前に携帯をいじっていたのは驚きましたが、すごいなと思ったのはそれでも大体の生徒が真面目に授業を受けていることです。そんなことを許可されたら途端に授業が崩壊しそうなものですが、自律心が強いのか、勉強意欲が高いのか、ハワイの高校生は大人だなと思いました。そして何より、皆主体的に勉強しているのです。日本の学校の授業では生徒は基本受け身で、先生があれこれ工夫しているという光景をよく目にしますが、ハワイでは先生と生徒で授業を作っていくという感じでばんばん生徒は発言しますし、もうとにかく自由でした。でもそんな授業を日本で行おうとすると並ではない努力が必要になるはずです。それでも私は積極性とコミュニケーション能力をつけるためこのような授業は日本でもやる価値があると思います。

また、ハワイ独自のものを取り入れた授業がたくさんあったのが印象的でした。ハワイ語の歌を授業前に毎時間歌ったり、ウクレレを弾いたり（音楽）またウクレレを造ったり（技術）と当たり前のように授業に溶け込んでいるのが面白かったです。

今、話者が少なくなっているうちな一ぐちも、似たような状況にあったハワイ語の復活の過程から参考になることはたくさんあると思いました。

もう一つ思い出に残っているのは中学校で三線を弾いたときに思った以上に喜んでくれたことです。沖縄の文化を受け入れてくれたようでとても嬉しかったです。こんな風に世界中の人が互いの文化を受け入れて、シェアすることでもっと豊かな人間関係を築いていけるのだと思いました。

✿ コミュニケーション ✿

私は幼い頃から他人とコミュニケーションをとるのが苦手でした。相手が話しかけてきても首を振ったり、一言二言返事をしただけでで会話を終わらせていました。成長するに従ってそんなことも徐々になくなってきていましたが、それでも話すのは得意ではなく相手を不快にさせてしまったことも一度や二度ではないはずです。でも、今回ハワイに行って現地の人とたくさん話をしたことで話すことに対するコンプレックスが少し無くなりました。最初はじっと目を見られることに慣れず口ごもったりしていましたが、彼らはいつも意見をききたがり、また私のつたない英語も最後まで必ず聞いてくれました。この日常会話の中で英語力やコミュニケーション能力を鍛えることができました。

そして本当にアメリカ人は表情豊かで日常的にスキンシップ、ハグやキスをしていました。知っていたことですが実際に自分自身の生活に入り込んでみると戸惑ってしまいました。でも、アメリカの子供たちはそうやって幼少のころから親に「大好きだよ」とハグされてきたからこそ、自分に自信を持ちいつも前向きに生きている子が多いのかなと思いました。と同時に、日本人にはもっとスキンシップ（特に親子間）が必要な気がしました。

❖ うちなーんちゅの絆 ❖

ハワイに行ってうちなーんちゅの深い絆に感動しました。ハワイには沖縄三世や四世が多くいました。おどろいたのは、彼らは沖縄に行ったことがなくても祖先がうちなーんちゅであることを誇って「私は沖縄〇世です」と嬉しそうに言ってくるのです。またそのような人たちが集まってできているグループ・沖縄県人会もありました。8月30日・31日にはハワイ沖縄フェスティバルという大きなお祭りも開催されています。ハワイで「沖縄」のフェスティバルをやるほど我々は団結力が強いんだ、故郷や故郷の文化を愛し、誇りに思っているんだ、と逆に教えられた気がしました。沖縄からずっと離れた地でこんなに頑張っている人々がいるのに私も怠けていられないなと思いました。

❖ 久米島への誇り ❖

「有名でテレビとかにもよく出るからここ（ハワイ）は雲の上の楽園なんだ。」無意識にそう認識していましたが、ハワイ特有の文化や慣習、言語、歴史などを学んでいくうちに私の心にはある一つのことが浮かんできました。それは「言葉も文化も自然だって、ハワイより沖縄や久米島が劣っているということはない。世界に誇れるものがたくさんある。」ということです。では、なぜ沖縄よりもハワイに観光客は集まるのでしょうか。その原因の一つは、沖縄、久米島はその魅力を存分にPRしきれていないことではないかと私は考えました。そしてそれにはそこに住む人々の地元に対する情熱の差が関係していると思いました。私はハワイに行くまでは心の奥底で「内（島内）にあるものより外（島外）のものの方が上等」だと思っていました。でも今夏、ハワイに行って外から故郷をみて、久米島にある宝物に気が付いて心から島が大好きになりました。もし他にも前の私のように思っている子がいるならば、その子にもこのあったかい思いを感じてほしいと思います。たくさんの人が島を好きになって自然にその良さを外へアピールしたいと思うようになればこの久米島はもっといい島になるのではないのでしょうか。

島そのものが宝。変に改造せずそのままの久米島をいかに磨いて世界へ発信していくか、それを私たち若い島人が考え実践していかなければならないのだと思います。

今回の短期留学では、今後の私の人生の中で大きな糧となるであろう貴重な体験をさせていただきました。直に異文化に触れ様々な人と出会って、価値観や世界観が変わり、また視野が大きく広がりました。この三週間は自分自身を振り返り、久米島・沖縄について客観的に考えるよい機会となりました。

私を育ててきてくれたこの島に恩返しができるように今できることをコツコツ精一杯頑張っていきます。